

尾道シニア会報

平成24年4月11日

第18回日本リトルシニア全国選抜野球大会出場

昨年11月5日、広島鯉城との決勝戦に勝って秋季関西連盟中国支部大会を制し、第18回全国選抜野球大会への出場を確かなものにしていましたが、2月4日、全国7連盟が推薦する48チームの出場が承認され、尾道シニアの5回目の出場が決定しました。この大会は、3月26日、京セラドーム大阪で行われた開会式で開幕しましたが、全国から集まった1,200名の選手による憧れのドームでの入場行進を尾道から駆けつけた保護者や新一年生の後輩たちも感動のまなざしで見守っていました。

翌27日の1回戦は、初戦の緊張感から選手の動きが硬いながらも逆転勝ちしましたが、つづく28日の2回戦では、強豪八王子シニアに力及ばず敗退しました。大会成績としては、過去4回出場の壁、2回戦突破の目標は果たせませんでした。選手たちは、全国大会という緊張感溢れる大舞台で、レベルの高いチームとの試合を通して多くのことを学んでくれました。必ずや、この貴重な経験を夏の選手権（神宮）大会出場に向けて活かしてくれるものと期待しています。

1回戦 対 新庄（東北連盟）4：3勝 2回戦 対 八王子（関東連盟）1：4負

土生 翔平選手（早大）広島東洋カープ入団

2011プロ野球ドラフト会議において、尾道シニア卒団（12期生）の『土生 翔平選手（早稲田大学）』が地元球団の広島東洋カープから指名され、12月13日、新入団選手として正式に発表されました。

彼は、中学生の頃から注目されていた選手で、当時の関西連盟中国支部には、同じ学年の中田 翔選手（北海道日本ハム）が広島鯉城シニアに在籍し、互いに良きライバルとして競い合っていました。卒団後は、名門の広陵高校、早稲田大学へと進学して、中心選手として活躍し主将も務めてきました。

私たちも、彼の高校・大学での活躍を見聞きしながら、将来は、プロ野球選手も期待できる逸材として注目してきました。そして、この度、昨年江村選手（大阪桐蔭高校⇒千葉ロッテ）につづき、2年連続して卒団生からプロ野球選手が誕生しましたが、これは全国のリトルシニアのチームでもあまり例がないことのように思われます。尾道シニアは、小さい頃からの夢を叶えた『土生 翔平選手』を、地元球団の広島東洋カープの多くのファンのみならず、一緒に、組織を挙げて応援してまいります。

第19期卒団生の進路が決まりました

第19期卒団生も、それぞれ志望する高校に入学が決まり、5年振りに尾道商業高校へ2名（光木君・三宅君）3年振りに尾道高校へ1名（小川君）が入学することになりました。現在、在学中の尾道シニア卒団の先輩がいない高校への進学は、いろいろ大変な面もあると思いますが、後に続く後輩のためにも、尾道シニアの卒団生として、しっかり存在感を示して頑張ってもらいたいものです。

藤原 由幸・河尻 直樹・二角 太陽（広島新庄高校）赤川 太一・三國 和輝（広陵高校）
幾田 雄斗・佐藤 心太郎（如水館高校）小川 将也（尾道高校）田頭 秀人・渡辺 廉（盈進高校）
光木 寛太・三宅 純平（尾道商業高校）

以上12名の卒団生は、高校へ進学しても、これまでお世話になってきた人たちへの感謝を忘れず、仲間を信じ、何より自分自身を信じて、一人ひとり夢の実現を目指して頑張ってくれるものと思います。

17名の新入団選手（第22期生）を迎えました

1月9日、グリーンヒルホテル尾道にて「2012年度尾道シニア入団式」を開催して、尾道シニアのスタッフ・選手・保護者がそろって、17名の新入団選手とその保護者のみなさんをお迎えしました。

これから3年間、尾道シニアでしっかりとした礼儀を身につけ、硬式野球を思いっきり楽しみながら、

一人ひとりそれぞれの夢の実現を目指してもらいたいものです。

井上 太河（美木中）小畑 空（新市中央中）開原 健斗（美木中）紙谷畑 海斗（東朋中）

神原 政央（浦崎中）木曾 秀一（栗原中）久保 義一（高西中）桑田 和真（新市中央中）

柴崎 草太（高西中）永井 涼太（高西中）花見堂 八哉人（新市中央中）福嶋 健矢（東朋中）

藤井 海（東中）前田 悠登（高西中）松岡 直輝（松永中）嶺 知憲（東朋中）渡辺 拓也（浦崎中）

近年、多くの尾道シニアの卒団生の活躍やバウンダリー制（指定地域外からの入団制限）の緩和などもあって市外在住の入団生が増えて、現在、総数 42 名のうち市外から通う選手は 14 名になりました。

2012年度春季中国支部大会優勝

2月25日、開幕した春季中国支部大会は、東西を勝ち上がった4チームによる決勝トーナメント方式で優勝を争いました。チームは、安定した守りと尻上がりに調子を上げた打線で効果的に得点して東部を制し、決勝トーナメントの準決勝戦では高川学園に10対0と大勝した後、決勝戦は東部決勝戦と同じく福山との再戦となりました。この試合は、延長9回まで戦って決着がつかず、大会規定によりタイブレーク戦となった10回、1点を先行されたその裏、2ランスクイズを決めてサヨナラ勝ちし、2年連続で春季大会を制して5年振りに中国支部大会の秋春連覇を達成しました。

この大会で、6試合すべてに登板し勝利投手になった川本 恭輔君（高西中）が最優秀選手賞を受賞しましたが、選手全員が、緊張する試合展開にあっても持てる力を出し切って戦い、栄冠を手にすることができました。ただ残念なことに、優勝チームに与えられる『東海連盟創立記念全国選抜大会』の出場権が、全国選抜野球大会に出場するチームにはないことになっています。

尾道シニア創立20周年記念

第19回尾道市長旗争奪野球大会準備はじまる

本年6月には、チームを創立し関西連盟への加盟が承認されて20周年を迎えますが、この最大の行事となる創立20周年記念大会や祝賀会を成功させるため、スタッフ・保護者が一丸となって取り組みを進めています。3月17日には、「尾道市長旗争奪大会準備打合せ会」を開催し、今年は、参加チーム数を「30」に増やすなど記念大会の運営方針を確認して、現在、保護者全員で、パンフレット掲載の広告集めなどに着手しているところです。

何卒、賛助会員の皆さまにも、創立20周年記念事業の成功に向けて、広告掲載のスポンサーを紹介いただくなど資金調達の活動にご協力をよろしくお願いいたします。

ご用の際は、いつでもお気軽に大会事務局長（田頭 健太郎）までご連絡ください。

日 程 平成24年8月4日（土）～6日（月）

会 場 びんご運動公園しまなみ球場他

運 営 第一日目 3チームによる予選リーグ戦（10ブロック）

第二・三日目 上位10チームによる決勝トーナメント戦

尾道リトルシニア ホームページ開設

前回の会報（No.003）でもお知らせしたように、昨年11月、懸案となっていました「尾道リトルシニアホームページ」を開設しました。随時、各種の情報を更新して中身の濃い内容になっており、他のリトルシニアのチームと比べて勝るとも劣らないホームページになっていると自負しています。

このホームページは、会員や賛助会員はじめ関係する皆さまとチームに関する正確な情報を共有のため開設したのですが、是非とも、ご閲覧いただきご意見ご感想をお寄せください。

<http://www.onomichi-senior.jp>

伊藤監督が卒団生の進学先を訪問

例年のように、シニアの活動の合間を縫って、伊藤監督が卒団生の進学先の高校野球部を訪問する予定にしています。監督も、久しぶりに卒団生の元気いっぱいの顔が見れるのを楽しんでいます。

— 賛助会事務局 —

事務局長 田 頭 健太郎（携帯電話 090(8247)9052）